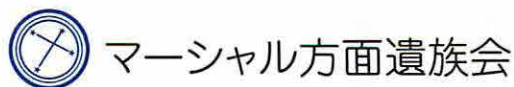


本部だより



●第19号

●環礁・本部だより第19号 ●発行日：平成21年2月1日 ●発行人：黒川誠
 ●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚3-4-17
 ●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



クェゼリン島主碑両脇に立つ巨大なオーストラリア松(ロバート・ジョーンズ報道官提供)

相談役
 大給湛子
 会長
 黒川 誠
 常任幹事
 荒木常子
 幹事
 高林芳夫
 山口良二
 草場 寛
 晝間志津子
 岡野智津子
 監査役
 内海淑子
 篤志会員
 徳原徳子
 山村 要

本部役員及び篤志会員

平成二十一年 元旦





平成二十一年度 慰霊祭・総会・直会のご案内

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り行います。

皆様お誘い合わせてご参加下さいますよう、お待ちしております。

■慰霊祭

日時 平成二十一年四月四日(土) 午前九時受付開始(当日は日曜日ではありません。くれぐれもお間違いなくご予約下さい)。

受付 靖国神社参集殿前 本封筒をご持参の上、出席名簿とご照合下さい。専用のワッペンをお貼りになった方が昇殿参拝出来ます。

慰霊祭 午前十時(ご本殿)
 ■定期総会

慰霊祭の後「靖国会館」前にて記念撮影を致します。その後、同会館二階「偕行の間(東)」で定期総会を開催致します。

正午より約一時間の予定です。

■直会(なほらい)

総会終了後、その場所が会場となります。閉会は午後三時の予定です。

●お願い

◇同封の出欠はがきは、欠席の方も各項目にご記入の上、二月末日まで本部に到着するようにご投函下さい。

◇本会への年会費(三千元)、寄付金、直会費(一名四千五百円)、玉串料(一名五百円)は、同封の郵便振替用紙にて二月末日までにお送り下さい。受付は毎年大変混雑致します。受付では現金の取り扱いは致しません。

●九段会館に宿泊希望の方へ

◇予約は本部にて済ませていますが、三月二十日までに各自で直接お申し込み下さい。なお、宿泊費は八千九百円(一泊朝食のみ)となります。

◇九段会館(電話03・3261・5521 宿泊担当・村上克己支配人)

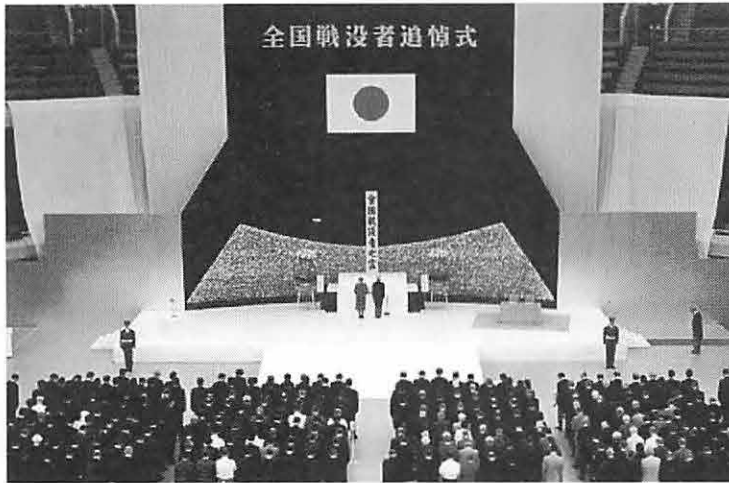
平成二十年度
 マーシャル方面遺族会

永代神楽祭(命日祭)奉奏

永代神楽祭出席者(靖国神社参集殿応接室にて)



本会の命日祭は例年通り七月十五日午後二時より会員十名が出席して滞りなく行われました。写真は、前列左より森井静子、黒川会長、富田キミ、後列左より高林芳夫、櫛崎馨、吉田正明、佐藤知子、



天皇・皇后両陛下のご臨席にて行われた「全国戦没者追悼式」(日本武道館)

荒木常子、書間志津子の皆さんと、写真撮影の私です。

靖国神社の参道両脇には縁日の屋台が出て大賑わいです。さらに境内に向かつては黄色の献灯が飾られ、本会の提灯を採って参集殿に向かいました(草場)。

平成二十年度全国戦没者追悼式

例年通り日本武道館で天皇・皇后両陛下のご臨場を仰ぎ、式次第通り進められました。

日本武道館周辺は警察をはじめ関係省庁の人達でいっぱい、折から夏本番を迎えた炎暑は連日マーシャル諸島に負けないような暑さです、しかしながら暑さに負けず各都道府県の団体が続々と入場、さらに招待者も数多く来場して広い武道館も満席になる程でした。

二階の席から見ていることは、私を含めて高齢者が非常に多いことです。戦後六十三年も経てばこれも時代の流れでしょう。

ご臨席の両陛下も高齢です。昭和から平成の時代になって既に二十年が過ぎました。私も毎年、招待を受けて参加していますが、変わらないのは官庁関係者達で、上の大臣クラスは毎年のように変わっていると思います。

この追悼式に参加できる人達もこれからは年を追うことに少なくなることでしよう。私達遺族にとつては今年のように盛大な追悼式が永く続くよう希っています(黒川)。

天皇陛下のおことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」にあたり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来既に六十三年、国民のためみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。が、苦難に満ちた往時をしのぶとき、感慨は今なお尽きることはありません。

ここに歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ、全国民と共に、戦陣に散り、戦禍に倒れた人々に対し、追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

平成二十年東京都戦没者追悼式

八月十五日(金)午前十一時四十五分
から文京シビックホール大ホールにて開催
(石原慎太郎東京都知事・宇田川劔雄
東京都遺族連合会会長)されて式典に会

長代理で参列しました。正午天皇陛下のお言葉がラジオ放送で流されて黙祷、その後式次第に沿って追悼式は滞りなく行われました(草場)。

秋の例大祭に参列して

平成二十年十月十八日、珍しく好天気
に恵まれた開催日でした。

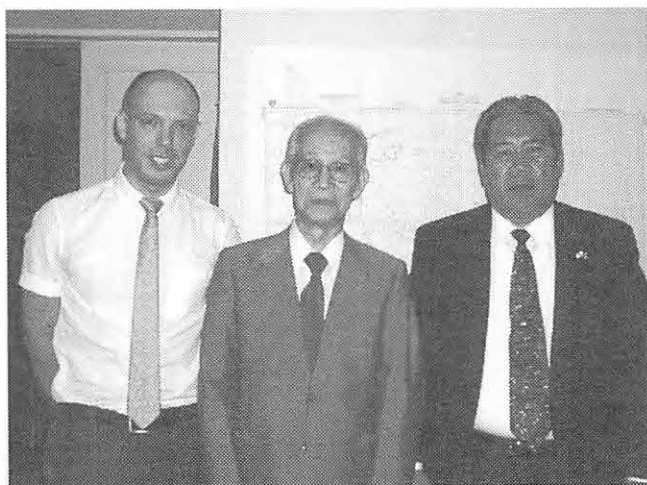
ご本殿の正面階段をはさんで左右に本
会寄贈の錦の御旗が秋の陽をいっぱい
浴びて燦然と輝き、その気品と美しさは
例大祭に錦上花を添えるような心持ちが
します。錦旗は参列されたほとんどの人
達の眼にとまったことと思います。

例大祭のはじまりには大太鼓が打ち鳴
らされてその大音響にはびっくりさせら
れます。南部宮司の祝詞奏上からはじ
まり、平和への祈願と靖国神社の現況か
ら奏敬奉賛会への入会、支援のお話があ
りました。毎年参列して思うことですが、
参列者は高齢者ばかりです。戦後六十年、
七十年になると英霊の顔も知らなければ
名前も判らない世代の家族が多くなるこ
とでしょう。

それでも靖国神社の例大祭、そしてご
英霊の永代神楽祭は存続して、奉慰顕彰
を齎行されることを願ってやみません
(黒川)。

マーシャル諸島共和国

ジベ・カプア新駐日大使を訪問



右よりジベ・カプア大使、本会会長黒川誠、グレッグ・ドボルザーク氏

平成二十年九月十八日(木)十一月の
現地慰霊巡拝を控え、ジベ・カプア駐日
大使をグレッグ・ドボルザーク氏と共に

面談して、本会の慰霊巡拝について意見
交換をしました。

マ共和国大使館は、東京都新宿区南元
町9-9明治パークハイツ一階にあり
ます。最寄り駅は中央線「信濃町」です。

前大使には故晝間副会長とお会いした
ことがあります。今回は現地の事情に通
じたドボルザーク氏と一緒に二時間
ばかり有意義な歓談の時間が持てました。

まず大統領に当たった書簡(ドボルザーク氏英訳)を手渡しました。ジベ大使は前大使に較べてすべてのことに前向きで、自国の抱える問題がいかに大きいかを感じ取れました。

マ共和国とマ方面遺族会の末永い友好
を確かめてまいりました(黒川)。

【書簡内容】

マーシャル諸島共和国 大統領閣下

平成二十年度マーシャル方面遺族会主
催による慰霊巡拝を企画致しました。

遺族十五名がクエゼリン島、ロイ・ナ
ムル島の慰霊碑を墓参に参りました。

戦後六十三年も過ぎますと、私達会員も皆八十歳、九十歳の高齢になりました。今回の参加者も皆高齢です。

しかしながら、かけがえのない親兄弟を失った悲しみは忘れがたく、体調の許す限り慰霊巡拝を心の支えにしています。幸いクエゼリン、ロイの両島は気候風土に恵まれて、移動するのも容易なところでございます。高齢者向きのコースであ

ると思います。

それにしても成田からグアム経由、クエゼリンまでの飛行は遠過ぎます。従って両島の慰霊巡拝だけで体力は限界になります。

出来ることでしたら全員揃って大統領閣下に表敬訪問して、ご挨拶申し上げるべきでございますが、ご理解賜りたく存じます。

公私共に要職にある閣下には、ご多忙の毎日と拝察致します。ご健勝でさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

末筆ながらマーシャル方面遺族会を今後共よろしくお願い申し上げます。

平成二十年十一月八日

マーシャル方面遺族会

会長 黒川 誠



マーシャル諸島、ギルバート諸島戦没者慰霊祭

平成二十年年度

慰霊巡拝のご報告

会長 黒川 誠

本誌前号でお知らせした通り、本会主催現地慰霊巡拝を終え、参加者全員無事に戻りました。日程に合わせて私のメモとしてご報告申し上げます。

■十一月八日(土)午後二時東京駅八重

洲北口改札前に参加者が集合して貸切バスで靖国神社に向かう。今回の現地慰霊の無事を祈って参拝後、神門前で記念写真を撮る。役員(荒木常子、晝間志津子、岡野智津子、高林芳夫、草場寛)の見送

りを受けてバスで成田エクセルホテル東急に向かう。

ホテル会議室で結団式と渡航説明会を行う(添乗員は小田急トラベルの加藤隼人氏)。

主催 マーシャル方面遺族会

日程 平成二十年十一月八日から十四日

場所 クエゼリン島

■十一月九日(日)午前八時四十五分、バスで成田空港第一ターミナルに向かい、

搭乗手続きと出国審査を行う。十一時五分、コンチネンタル航空962便でグアムに向けて出発。十五時三十五分グアム到着後バスでグアムリーフホテル着。

■十一月十日(月)クエゼリンに向けて

早朝より空港に向かう。搭乗前の身体検査、手荷物の検査は相変わらず厳重を極め、更にトラック島では全員機外に出されて、シートや手荷物等の検査が実施される。次のポナペ、コスラエも同様の厳

しい検査が続けられた。十七時三十六分にクエゼリン島に到着。ようやく検査から解放されてほっとする。成田を発つときは初冬だったが真夏へ一変する。

■十一月十一日(火)慰霊祭の準備をする。天候が気遣われたが十時には晴れた。慰霊碑前にはテントが用意されており、一同喜んで祭壇の準備にかかる。式には

現地より考古学者のレズリー女史、イバイからアト・ランキオ、アト・ネイロン夫妻、クエゼリン基地のマーシャル人代表者のジェルトン・アニジャイの四氏のご出席下さり、歓迎と式辞を戴いた。

慰霊祭は式次第に則り、奥井國夫氏の司会で始まる。参加者全員が追悼文を読み上げて肉親に呼びかけるようにご英霊の御霊安かれとご冥福を祈る。齋行の終章は、うみゆかば、ふるさとの合唱。

■十一月十二日(水)レズリー女史の資料館に案内されてクエゼリン島の戦場であった頃の米軍の状況、数々の資料、文献等が説明された。

報道官の好意で空港資料館を見学する。今回初めて見る写真が沢山あった。午後三時の船便でイバイに行く。マーシャル

人の歓迎交歓会に招かれて全員ゆかたを着て出席する。交歓会の会場はマイケル・カプア氏(酋長)の集会場を提供される。グレッグ氏の司会兼通訳で交歓会が始まる。沢山のご馳走が並び、賑やかなパーティとなる。ビデオ撮影を試みるが、照明が暗くて残念。それでもマイクが用意されて挨拶や自己紹介は館内に良く届いた。

■十一月十三日(木)ロイ島の慰霊祭は、米軍のミサイル実験演習のために中止となる。それで島内の戦跡や資料館の見学となる。表紙写真(ロバータ・ジョーンズ報道官提供)に見るように慰霊碑の両側にはオーストラリア松二本が育つて五メートルを超す大木となっている。

この高さがレーダーその他の障害になっているので少し高さや枝を切っても良いかと言う申し出に快諾する。慰霊碑の写真は数度表紙を飾ったが、両脇の木がこんなに伸びていたとは驚いた。それで表紙の写真に採用した。

帰途に着く。また想像以上の身体検査と機内の座席の下までひっくり返しての検査には辟易する。グアムリーフホテルでは夕食時を利用して解団式を行う。

■十一月十四日(金)成田着。通関後解散。慰霊巡拝を終えて全員無事に戻るこゝとが出来たことは参加の皆さん、グレッグ氏、加藤氏の協力の賜と感謝する。米軍の事情でロイ島慰霊が出来なかったのは心残りであったが、全て米軍サイドに従うことになっていたのでやむを得ない。

参加者名簿(五十音順・敬称略)

泉水堯恵(千葉) 植田和明(埼玉) 植田敏裕(広島) 扇原美智子(富山) 奥井禮子・奥井國夫(広島) 黒川誠(東京) 蜂屋雅代・蜂屋安理(神奈川) 廣島正光(富山)・渡部守・渡部幸典(愛媛) 渡部俊哉(佐賀) 〓グレッグ・ドボルザーク氏・加藤隼人氏の十五名。

慰霊祭式次第

- 一、開会
- 二、国歌斉唱
- 三、祭文
- 四、黙祷(般若心経・泉水氏に続いて後唱する)

- 五、追悼のことは（全員）
- 六、合唱（海ゆかば・ふるさと）
- 七、拝礼
- 八、閉会

祭文

マーシャル諸島、ギルバート諸島周辺海域で戦没された三万五千余柱のお御霊を祀られたクエゼリン島主碑前で慰霊祭を齋行致します。私達が本日の慰霊祭を齋行出来すのは、基地司令官を始め関係者皆様方の深いご理解とご配慮の賜と有難くお礼申し上げます。

先の大戦で遠い異国の島々では補給物資もままならず苦しい戦の末に散華された皆様方の無念さは私達肉親には痛いほど良く判ります。

このような尊い犠牲に守られまして私達は平和で幸せな暮らしを享受することが出来るようになりました。

戦後六十三年の歳月が流れまして平和の時代が続きますと、戦争の苦しき悲しさが薄らぐような風潮を残念に思う高齢になりました。私達遺族は、平和な時代

にあっても皆様方ご英霊のことは終生忘れることはありません。肉親を失った悲しみは深く心に刻まれております。

現在の島は蒼い空エメラルドグリーンの環礁、緑いっばいの平和な樂園を思わせるように変わり、六十三年前に壮絶な激戦地であったことは想像も出来ません。

私達は近ければ毎年の春分、秋分の両日も墓参したく思います。クエゼリン・ルオットは遠方です。高齢者には大きな負担になります。しかしながら体力の続く限り今後墓参を欠かしません。

ご英霊の皆様がご祭神と祀られる靖国神社で、今年も桜花らんまんのもとで慰霊祭を齋行致しました。

平成二十年十一月十一日

マーシャル方面遺族会

会長 黒川 誠



渡部 守

十一月九日朝、成田空港で皆さんと合流して、翌十日にクエゼリン島に着きま

した。一度は来て見たかったであろう亡き父母に代わり、息子と三人で出席出来たことを感謝しながら式の準備中、オーストラリア松に巣くっていた蜂に刺されるハプニングがありました。大事にはなりませんでした。

今回は以前にクエゼリン島に住んでおられたご夫妻が列席されて挨拶され、感動致しました。

奥井さんの司会で式が始まり、会長の式辞、追悼文、焼香、般若心経等と遺品の何もない英霊を偲び、「海ゆかば」、「ふるさと」等を全員で合唱して慰霊祭を終えました。

夕方は浴衣に着替え、隣の島での原住民との交流会へと出かけました。船の着く港の近くに子供が大勢いたのには驚きました。

人懐っこい瞳を輝かせてデジカメに十数人が群がり、はしゃいで、中には裸足の子供がおり、今時珍しい光景でした。夜は日系住民の方も多数見えられて、グレッジさんの通訳で色々お話を聞くことが出来、なごやかに会場が盛り上がりつつありました。

婦人たちによる白花のレイ、貝の首飾り、貝のペンダントをプレゼントされました。大切に保管し、家宝にしたいと思っています。

原住民の方々による厚いおもてなしの気持ちをおぼれ、末永く交流出来ればと思いつつ、島を離れました。

十二日には戦跡を巡り、考古館を見学し、改めて戦争の悲惨さを痛感致しました。空港近くのクエゼリン島の資料館で島民の方の昔の生活を見せて戴きました。珍しい船の模型があつたのでスケッチして帰りました。

三日間お世話になった「クワジャリンロッジ」と別れを告げ、帰国の途に就き、東京へ向かいました。

旅行中は黒川会長を始め皆様にお世話になりました。有難うございました。御礼申し上げます。



廣島正光

今回クエゼリン島慰霊の旅を企画して

下さいましてありがとうございます。黒川会長はじめ現地生まれのグレッグ・ドボルザークさんが色々ご準備下さいまして何事もスムーズに楽しく慰霊の旅ができました。

現地の方々にも色々大切な資料など見せて戴き、お話を聞き、大変勉強になりました。また、イバイ島での交流会も大変楽しく、思い出深いものとなり、嬉しく思います。

今回の慰霊祭に参加出来ましたことを心より御礼申し上げます。

追悼のことば

お父さん、また会いに来ました。早いものです。平成八年から十二年がたちますね。

でもご安心下さい。母も八十九歳になります。毎日元気でゲートボールに参加して楽しく暮らしています。

今回は姉の美智子と来ました。お父さんが最後まで戦われましたこの地にどうしてもお父さんの子供として姉弟二人でお参りしたくて来ました。

亡くなられたこのクエゼリンの地に眠っておられますが、私は顔も知らないのに六十五歳になります。

これも今は平和になったお陰だと思えます。

家族も皆元気で仲良く暮らしています。が、これからも私たち家族みんなをお見守り下さい。

お父さん、安らかに眠り下さい。それから、平成八年にここに訪れた遺児で毎年思い出の会として会い、先月熊本県で十八名が出席されました。

その方のお名前は、大森昭二、天野好子、広上敏夫、石川正興、土田利子、澤田月子、井上篤幸さんです。この方々のお父さんもこのクエゼリンに眠っておられます。

その他、打矢和子、鶴沼久義、上田一夫、東地井義則、佐々木智津子さんたちのお父さんもこの近海で亡くなられております。

この遺児の皆様もお元気でいられますので、ご安心して下さい。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十年十一月十一日



佐竹エスさんを偲ぶ会

岡野智津子

突然の出来事でした。

去る五月末日佐竹さんが亡くなられました。毎月開催の当会役員会に二カ月続いたの無断欠席がありました。私達からの電話も通じず、比較的距離の近い黒川会長が佐竹さん宅に向われ、ようやく管理人から詳しい内容が分かりました。翌日会長より訃報がもたらされ、吃驚致しました。遺骨は郷里の山形へ甥御さんがお持ち帰りの後で、本会としてお見送りすることも適わず、誠に残念でございました。

早速会長から本会の名前でご香料を添えて弔文をお届けしましたがご連絡がなく、七月二十日の役員会にて相談の結果、長年に亘る多大な功績を残された佐竹さんに対し感謝を込めて「偲ぶ会」を

催すことに致しました。

この「偲ぶ会」につきましては、遠方の会員様には遠路ご足労と存じまして近郊の方のみお知らせ致しました。悪しからずご了承下さいませ。

また、昭和四十四年慰霊碑建設当時より佐竹さんと深い交流をお持ちのハワイ在住の徳原徳子さんには、七月二十三日電話でお知らせ致しましたところ、早々に会長宛にご丁寧な弔文を頂戴致しました（十ページ参照）。

佐竹エスさんを偲ぶ会

会場 九段会館くだん亭

日時 十月十二日（日）午後一時から三時

会費 三千円

出席者 四十三名。また、ご都合でやむを得ず欠席の石川正興、猪瀬康夫、植

田敏裕、奥井禮子、山田二美様より献花料を頂戴致しました。

当日は、準備のために午前中に「くだん亭」に入りました。室内の席は前日の打ち合わせ通りに向かい合わせに二列皆様がお互い話しやすいように配置されていました。

早速正面に祭壇を設け、佐竹さんの写真を置き、お供物、お花籠を両脇に整えてささやかなお飾りが出来上がりました。

祭壇の横には在りし日の佐竹さんの姿を映し出すスクリーンが置かれました。正午過ぎより次々に皆様がお集まり下さり、お悔やみの言葉を交わして久しぶりにお逢いになる方々がお挨拶され、それぞれにお席に着かれました。

やがて高林幹事の司会で「佐竹エスさんを偲ぶ会」が始まりました。故人のご冥福を祈って一同献杯の儀を終えて、黒川会長よりお悔やみの言葉と佐竹さんの亡くなった経緯が詳しく報告されました。

郷里より見えた甥ごさんの佐竹吉幸さんのお挨拶、徳原徳子さんから戴いた弔文を荒木常任幹事がお披露されました。

会員の皆様方も次々に佐竹さんへの思

い出話をお聞かせ下さり、限られた時間でしたがお話の絶えることなく、和氣藹々の中でお食事を共に取り、佐竹さんを偲び和やかな雰囲気を見せて戴き、誠にほほ笑ましくお見受け致しました。

遠い昔、マーシャルの地で散華した親兄弟の遺族たちが今なお心一つに結ばれ絆深めている姿を、亡き友佐竹さんが見せてくれたのだと思えました。また、故人が一番望んでいたことであり、何よりの供養の会となりました。ご出席の皆様ありがとうございます。

以上、遠方の会員の方々に当日の報告までに記させて戴きました。合掌。



徳原徳子

(ハワイ在住)

佐竹さん、マジュロで初めてお目にかかってからもう四十年経ちました。あの日が生涯を通しての長い深いおつきあいの第一歩だったなどとは夢想だにしませんでした。

マジュロ到着以来、あなたと浮田信

家様は多くの島々を小さな貨物船で回り、精神的な慰霊と遺骨収集活動を続けておられました。佐竹さんとの思い出のハイライトは、何といっても慰霊のための船の旅でした。この旅に私が同行したのは、大酋長で当時社長だった故アマタ・カブア氏の命令でした。何か困ったことがあれば手伝って上げるようにとのことでしたが、別に困ったことなど何一つなく始めから終わりまで楽しい旅でした。

マキン、タラワ、オーシャン、ナウルなど各島の戦跡での慰霊祭に私も参列させて頂き、当時の戦いの激しさと戦死した兵士たちの無念さを偲びました。

どの島を訪れても現地の人達の心暖かさに触れ、感激の絶えない旅でした。佐竹さんも浮田さんも誰彼問わず仲良くなり結構楽しそうでしたね。

クエゼリンでの慰霊碑建立に関わったことも私にとっては貴重な経験でした。人種を越えたボランティアの方々の大変な努力で完成したのですが、毎日作業の後、粗末なテーブルを囲み、冷えたビールを飲み、私が作ったマカロニサラダを食べながら歓談するのは、娯楽の

少ない小さな島での小さな楽しみでした。その慰霊碑に遺族会の皆さんが度々訪れ、出来映えを称賛して下さいることは、ボランティアの方達に取っても本懐でありましょう。しかしその方達のほとんどが既にこの世の人ではなく、時代の推移と無情を感じています。

佐竹さん、あなたは浮田さんとともにマーシャル方面慰霊の道を遺族会のために開いたパイオニアでした。

私の日本訪問は、ここ十年来頻繁に続いていますが、その度に必ず会って下さいますね。佐竹さん、歌舞伎へのご招待、珍しい名所へのご案内、グルメの供応など数え切れない程お世話になりました。

大病を克服されたあなたのその元気に、十歳も若い私が着いて行けないことも度々でした。あなたの底知れない生命力に私は驚嘆し、常に見上げていました。おかしな事ですが、佐竹さんは不死身だと信じていました。

訃報に接した時「そんなことはあり得ない」というのが私の最初の反応でした。葬儀や「偲ぶ会」は、死を悲しみ涙するものではなく、故人の充実した長い生涯

を称え、祝福すべきものと私は認識しています。

いずれ佐竹さんとは別の世界で再びお目にかかれますが、その時は、抱えきれないほどの思い出を一つ一つゆつくりと紐解いて語り会おうではありませんか。もう病気や死の心配のない世界なのですから。

私の夫、徳原勇が他界した際、あなたは彼を偲ぶ手記を「環礁」に寄稿して下さいました。その手記は「ほんとうにありがとうございました。安らかにやすみ下さい」という言葉で結ばれていました。

今私はあなたに同じ言葉を述べて、この拙文の結びと致します。「佐竹さん、この世での沢山の貴重な思い出、楽しい語らい、ほんとうにありがとうございました。安らかにやすみ下さい」。

二〇〇八年七月二十四日

井上賀雄

当時、戦後二十年以上たっても私たちの思いは適わず、父たちが戦死したマー

シャル諸島周辺の様子が、遺族にとって皆目分らない状況でした。

そのため、昭和四十二年（1967年）四月、現地の事情調査、収骨、慰霊に、マーシャル方面遺族会の常任幹事浮田さんと幹事の佐竹さんが、七カ月間の長期にわたり、横浜から船で現地に旅立たれました。

帰国直ぐの十一月、マーシャル方面遺族会主催の現地事情調査報告会が、当時小学校の教員をされていた佐竹さんのお世話で、東京・品川区の高台にある小学校の教室で開催された時のことを思い出します。

日曜日、児童のいない教室で、当時も米軍の重要軍事施設になっているマーシャル諸島には、通常近寄ることが出来ない珊瑚環礁の島々の様子や、苦労話など、いろいろと伺いました。

私が佐竹さんとお話したのはその時が初めてだったと記憶しています。

佐竹さん達が現地に行かれて、米軍ならびに原住民とのコミュニケーション、また各島々の状況調査をされたお陰で、日本政府もなし得なかつた現地慰霊

碑の建立、現地慰霊訪問などがその後実現していったものと思われれます。

その基礎を作られた浮田さんと佐竹さんのお二人に心から感謝の念を捧げます。ありがとうございました。

私の父と同じクエゼリン環礁ルオット島に勤務されていた佐竹さんのご主人は、通信担当だったそうで、日本軍玉砕前後の重要な通信もされたのではないかと想像します。

佐竹さんは、遺族会の現地慰霊で行かれると、毎回ルオット島にある戦争記念博物館を訪問されました。

展示物を見ながら、きつと佐竹さんは亡きご主人と対話をされていたようにも伺えます。

私どもが現地慰霊に参加出来なかつたときには、佐竹さんはいつも写真を数多く撮ってこられ、その様子を詳しく説明して下さいました。

そのときも口癖の「・・・云々（うんぬん）」をよく口にされていました。

もう聞かれなくなったのは残念でなりません。

ご冥福をお祈りいたします！

慰霊祭齋行後、出席者全員で記念撮影。中段左：現地出席者の焼香。中段右：泉水堯恵さんの般若心経。



イバイ島でのマーシャルの人々との交歓会記念写真。

本部だより

●第 20 号



マーシャル方面遺族会

●環礁・本部だより第 20 号 ●発行日：平成 21 年 8 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



みたままつり(靖国神社)

平成二十一年
慰霊祭 総会 直会

桜花爛漫の慰霊祭齋行

石川 勲 (東京都)

今年も「マーシャル方面遺族会」の靖国神社での慰霊祭が満開の桜に迎えられるのがなく齋行されました。

社殿の周囲はまさに桜花爛漫の心を和ませる景色でした。また、往時を思い出させ、寂しさを募るものでもありました。参集殿前には例年通り受付が設けられており、役員の方々のお世話とご苦労に感謝をいたしながら参集殿に入りました。

例年ですと多くの団体の受付があり大変な混雑でしたのに、今年はいかがしたものか二団体しかなく、寂しさ戸惑いを感じたのは私だけではないはずです。

参集殿でさらに驚いたのは、我が「マーシャル方面遺族会」の他に参拝団体がなく、例年の混雑が嘘のようであり、広い参集殿が閑散としており、愕然といた

参集殿と桜

ジベ・カプア駐日大使と黒川誠本会会長



参集殿前の受付風景

参集殿前の受付風景

来ました。
待つことしばし、定刻に昇殿、国歌吹奏に始まり、供物の奉奠、神官による祝詞奏上、黒川会長の祭文に続いて、全員で参拝し、慰霊祭は無事終了いたしました。

ジベ・カプア駐日大使のご参加

今回特筆すべきことは、ジベ・カプアマーシャル諸島共和国駐日大使の参拝でした。

これからマ共和国と本会の末永い友好が始まる時、今回の慰霊祭参加者が八十数名で、昨年と比べると二十名以上の減少は何を表しているのでしょうか。終戦から六十四年、間違いなく遺族の高齢化が現実になっています。参加したくても一人で遠隔地からの上京が困難になったことだと思います。

来年も慰霊祭が来ます。大勢の会員の方々に参拝をしていただくには如何にしたら良いのでしょうか。今年のような寂しさを感じない人出を期待したいと思います。

慰霊祭出席者名簿

敬称略

- 青森県 須藤明子 宮城県 佐藤勉 山形県 長岡正昭 福島県 富田キミ 鈴木ヨシエ 根本さとみ 茨城県 北條晃 神永栄子 鈴木やよい 栃木県 菊地彦 巨 埼玉県 西勝章夫 小野博孝 小野トキ子 藤田羊一 大井和子 小松順子 佐藤知子 高林芳夫 小室貞男 小室洋子 小田原利子 千葉県 石井健蔵 泉水堯恵 相川孝夫 東京都 黒川誠 石川勲 藤縄安子 晝間志津子 荒木常子 間々田征史 間々田邦子 田島昭男 田島智恵子 石塚文子 西田恒子 水野貞二 水野薫 星野綾子 会田くに 内海淑子 中村順子 中村秀夫 番場信子 谷梯初枝 石川章子 浜田つき子 草場寛 山口良二 小林法子 坂本美枝子
- ジベ・カプアマーシャル諸島共和国駐日大使 グレッジ・ドボルザーク 神奈川県 安威和子 佐藤隆一 佐藤章子 柳沢弘子 平井貢 鈴木友季子 鈴木進 岡野智津子 糞谷友孝 森井静子
- 長野県 油井芳枝 荻原京子 富山県

直会スナップ



総会スナップ



広島正光氏と扇原美智子氏

総会スナップ

- 式次第
- 一、開会の辞
 - 二、会長挨拶 会務報告
 - 三、会計報告
 - 四、役員改選 新会長の選出
 - 五、新会長の挨拶 役員を選出
 - 六、国内の慰霊行事
 - 七、現地慰霊巡拝の報告
 - 八、その他

総会
総会は靖国会館（偕行の間・西）において正午から開催されました。
高林芳夫幹事の司会、山口良二幹事の議長で式次第通りに進行しました。

総会

- 広島正光 扇原美智子 新潟県 山田良郎 愛知県 浜田芳枝 鈴木りよ（他四名） 岐阜県 吉田正明 堀尾洋平（他二名） 広島県 瀬戸隆子 瀬戸作次 香川県 松原敦子 石川妙子 金森佳子 眞鍋正美 眞鍋信一 愛媛県 兵頭義彦 奈良県 山中美子 山口県 榊崎馨 福岡県 平田郁子 石松順子

九、閉会

本年は役員改選の年で満場一致で黒川誠前会長が選出され、役員は、荒木常子 常任幹事、幹事には高林芳夫、山口良二、草場寛、晝間志津子、岡野智津子の五氏、監査役に内海淑子氏が会長によって指名されました。

国内の慰霊行事は、五月二十五日に千鳥ヶ淵墓苑拜礼式、七月十五日に永代神楽祭命日祭、八月十五日に全国戦没者追悼式、東京都戦没者追悼式、十月下旬に沖縄戦没者追悼式が行われます。

本会の現地慰霊巡拝は、来年度に行う予定です。

直会

定期総会終了後、同会場を組み替えて直会を開催致しました。

参加者は年々少なくなりましたが、ドボルザーク氏を迎えて、和気藹々の直会となりました。同氏は「ジベ・カブア大使の慰霊祭参加が示しますようにマーシャル国と本会の友好が始まりました。前年の現地慰霊ではマーシャル人との交流

会が盛大に行われました。日米戦の陰にはマーシャル人の存在があったことを忘れがちですが、今後も友好的な交流が行われるのが現地慰霊の意義を深めることになると思います」と述べられました。前年の現地慰霊に参加された広島正光 扇原美智子氏（富山・兄妹）も慰霊と交流会の模様を報告して戴きました。午後三時に終了。

会員減少に伴うこれからの慰霊祭

石井勲氏による慰霊祭報告にもありますように、本会の慰霊祭においても年々参加者の数が減少しています。黒川会長は次のような内容で「新会長の挨拶」で、その考えを述べられました。

「皆さんもお感じのように、本会の慰霊祭、定期総会、直会へのご参加が会員、会友の高齢化に伴って減少しています。

ご参考までに申し上げますと、平成十八年度の出席者は百八名、十九年度は百七名、二十年度は百十名、そして本年は九十五名です。

原因は高齢化による体力の衰えと付き

平成 20 年度 会計報告書

マーシャル方面遺族会

自：平成 20 年 1 月 1 日
至：平成 20 年 12 月 31 日

1) 一般会計収支計算

収入の部

科 目	金 額
前期繰越	957.056
賛助金	981.000
受取利息	425
雑収入	37.995
年会費	17.000
寄付金	12.000
小計	1,048.420
合計	2,005.476

支出の部

科 目	金 額
慰霊費	518.724
広報費	559.666
会議費	112.496
雑費	80.498
振替手数料	25.500
公租公課	0
小計	1,296.884
次期繰越	708.592
合計	2,005.476

2) 一般会計財産目録


平成 20 年 12 月 31 日現在


資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	54.442		
普通預金	536.389		
郵便振替	117.761		
		次期繰越	708.592
合計	708.592	合計	708.592

3) 特別会計

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期より繰越	9,000.000		
		次期繰越	9,000.000
合計	9,000.000	合計	9,000.000

※定期預金および定額貯金として保管

会長 黒川 誠 

会計 荒木 常子 

添いなしでの出席が不可能となっているのです。現在の会員、会友の方々は八十歳以上の方が殆んどです。それに追い討ちをかけるように毎年物故される方がありますから、今後は益々少なくなりそうです。

ご存知と思いますが、靖国神社で発行されている会報「靖国」の最終ページには、毎月斎行される陸海軍、各部隊名で慰霊祭予定が掲載されていますが、それも年を追うごとに減り、解散を余儀なくされています。

私事になりますが、所属していた陸軍北支那派遣軍春第二九八六部隊砲兵隊の記念植樹が神門近くにありますが、これも隊員の高齢化で慰霊祭は十五年前に廃絶となりました。

恐らく現在の合同慰霊祭と称する団体もこのような状況になり、縮小か解散になるでしょう。戦後六十五年以上も経過した現在では、父の顔も知らない遺児や戦争を知らない世代の人達が多くなっている平成の時代は、さらにこの傾向が広がりをみせています。

会員、会友が故人となった後、その家族が会員を継承してくれれば良いのです

が、遺族会の関係は親の代で打ち切りになる場合がほとんどです。

靖国神社では、単独での昇殿参拝は百名を最小限と考えています。従って五十名前後の参拝者数となりますと、他の団体と合同で斎行するようにと言われています。

私共役員は参加者が何名になろうとも慰霊祭を続ける所存ですが、何時の日かのことを考えてご英霊の御霊に奉慰顕彰が永代にわたり出来る永代神楽祭を申し込んでおりますのでご安心戴きたいと思えます。

戦没者遺児の皆さんへ

日本遺族会では、平成三年より政府の委託ならびに補助を受けて、「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」を実施しています。

この事業は、戦没者遺児に対する慰霊の一環として父を国に捧げた戦没者遺児が一度は亡き父の眠る地へ赴き、心行くまでの慰霊追悼を行うと共に友好親善を深めることを目的としたものです。

平成二十一年度は、十六地域を計画されていますので、関係遺児の方々の多数のご参加を呼びかけています。参加者が募集人員を上回る場合は、遺族会本部で選考の予定です。

- 実施地域 別表通り
- 参加資格 戦没者の遺児
- 費用 国内・五万円 外国・十万円
- 過去五年以上にこの「慰霊友好親善事業」に参加された方で、再訪問をご希望の方は、「マーシャル方面遺族会」本部までお問い合わせ下さい。
- 申し込み方法 在住する各都道府県遺族会事務所へ。

平成 21 年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業概要

	実施地域	実施時期	募集人員
1	旧満州	平成21年7月上旬	30人
2	旧ソ連	平成21年7月中旬	45人
3	西部ニューギニア	平成21年8月下旬	35人
4	マリアナ諸島	平成21年9月上旬	40人
5	中国	平成21年9月中旬	75人
6	東部ニューギニア	平成21年10月上旬	70人
7	ボルネオ・マレー半島	平成21年10月中旬	30人
8	トラック諸島	平成21年10月下旬	20人
9	パラオ諸島	平成21年10月下旬	20人
10	ソロモン諸島	平成21年11月上旬	30人
11	フィリピン	平成21年11月中旬	120人
12	ミャンマー	平成21年11月下旬	60人
13	沖縄	平成21年12月上旬	50人
14	台湾・バシー海峡	平成22年1月中旬	30人
15	マーシャル諸島	平成22年2月中旬	18人
16	ギルバート諸島	平成22年2月中旬	15人

追悼の島

東京大学大学院情報学環・歴史学博士

グレッグ・ドボルザーク

この頃「追悼」の大切さをよく考えている。昨年十一月のクワジェリン環礁現地慰霊にも今年四月の靖国の慰霊祭にも参加させていただいたが、今回で三回目の貴重な体験だった。2004年に博士課程のクワジェリン環礁の研究を始めたが、2007年の博士論文終了までの三年の間、たくさんのクワジェリンの日本各地からの若い戦没者の話をたくさん聞かせていただいたおかげで、その戦没者に随分親しみを感じるようになった。それは、マーシャル方面遺族会と出会うことができなかつたら不可能だったと思うので、いつも心から有り難く思っている。

アメリカ人でありながら、私はマーシャルにも日本にも人生の三分の一ずつ住んだ経験があり、さらにオーストラリアの首都キャンベラにあるオーストラリ

ア国立大学で博士の研究をしていたこの「クワジェリン」というキーワードをいろんな角度から見ることができた。

クワジェリン環礁の日本人遺族だけでなく、マーシャル人、韓国人、そしてアメリカ人の遺族とも関わる事ができたし、そのおかげで、太平洋戦争の前後や現代の日米関係におけるマーシャル諸島の人間的な歴史をより深く理解することができた。兵隊さんやいわゆる「島民」たちの気持ちなどを直接経験することができなくても、いろんな話を聞いて、みなさんと涙を流すことによつて自分の故郷、クワジェリンを通じて、追悼と平和の大切さを感じることができたのである。幸運にも昨年3月に、私の博士論文、「Remembering the Coral and Concrete of Kwajalein Atoll」(「珊瑚とコンクリート」クワジェリン環礁の「記憶」について)が合格し、博士号をとることができた。

今回の現地慰霊のとき、「追悼の言葉」を初めて頼まれた。幼い頃から、あのこの慰霊碑を何度も見て、一人で花をあげたりしたことがあったけれど、遺族の方

とともに、声を出してクワジェリンの戦没者に話したのが初体験だったので、随分緊張したけど、心から感謝の気持ちを伝えることができてすごく嬉しかった。

いつも慰霊碑の維持管理をしているクワジェリン環礁の米軍基地環境部の考古学者、レズリー・ミードさんも初めて参加したし、子供の頃クワジェリン島やロイ島に住んでいた私の「マーシャル人のおじいちゃん」であるアト・ランキオさんと奥さんのネイロンさんも、今回初めて現地慰霊祭に参加されたマーシャル人になった。

慰霊祭のときも、その後のイバイ島での交流会のときも、日系マーシャル人や当時を生きた現地の方と日本の遺族やアメリカ人と過ごし、唄を歌ったりできて、鳥肌がたつくらいとても感動した。やはりクワジェリン環礁の島々のように、私たちが目に見えないところで、国や歴史が違って、海の下の珊瑚礁みたいに繋がっていると思った。

満開の桜の下で、同じようにクワジェリン環礁の追悼の大切さを感じた。四月四日にマーシャル諸島共和国の駐日大

使、ジベ・カプアさんと一緒に靖国神社での慰霊祭に参加させていただいた。カプア大使は、マーシャル諸島共和国初代の大統領でもありイロージラプラプ（＝大酋長）であったアマタ・カプア氏の長男で、お母さんは南洋貿易会社の日本人とマーシャル人の貴族の娘なので、日本時代の歴史に深い関心がある方である。「一生懸命戦って戦没した男たちとその遺族の気持ち分かるし、私たちマーシャル人もその悲しい時代と一緒に苦しんだので、平和と友好のために一緒に追悼させていただけで光栄だ」と話していた。慰霊祭に参加しながら気づいたが、境内の外に、「右翼」や「左翼」団体の放送や軍歌の音が聞こえてくるのに、本殿の中では神主の祈りの言葉やカラスの音以外、平和な沈黙だった。純粹に大切な人を亡くした人々の追悼だけでなく、平和への祈りでもある。靖国神社の中でも、悲しみを癒してくれるクワジエリンの波の音が遠くから聞こえてくる。

地球上、戦争を知らないところは存在しない。今でも激しい戦争が続いていく。しかしその中で、美しく静かなクワジ

エリン環礁は、追悼の島でもあり、平和の象徴でもあると思える。東西南北を結ぶ広い太平洋の真ん中にあり、不思議な運命で様々な人の歴史を結んでいる。その珊瑚の砂の下で眠られる方々も優しく包みつづけていく。

世界の若者がこのような本来の人間的な歴史をより知ることができれば、確実にすばらしい平和が生まれるのではないかと思う。これからマーシャル方面遺族会との交流を深めながら、私の本を英語や日本語で出版し、日本の大学でやっこのような事実を教授として教えることができると思う。

是非、今後も、遺族の皆様とクワジエリンのような太平洋に浮かぶ島々の貴重なメッセージを世界に伝えたい。

徳原徳子さん歓迎会

岡野智津子（神奈川）

本誌で何度もご登場戴いている篤志会員の徳原徳子さん（ハワイ在住）は、申し上げるまでもなく「マーシャル方面遺



徳原徳子氏（左から3人目）と役員一同

族会」の恩人といふべきお方です。その徳原さんは横浜のご出身で、毎年春秋二回募参その他で来日していらつしやいます。四月二十七日、本会の役員（黒川誠会長、荒木常子、内海淑子、高林芳夫、草場寛氏、そして私）の六名が揃い、横浜駅近くの横浜スカイビル二十八階「五穀五菜酒家・陸風」でささやかな歓迎の会を催しました。

本会でお世話になりながら、徳原さんがどうして南の島に行かれたのかお聞き

する機会がありませんでしたので、根掘り葉掘り伺ってみました。黒川会長も始めて伺う話に興味深くなさっておられました。

その内容は戴いた「一通の手紙から」にありますのでご覧下さいませ。

歓談後、来秋の再会を約束してお別れ致しました。

一通の手紙から

徳原徳子

遺族会と私との糸の結びつきは一通の手紙がきっかけでした。

私がマーシャル諸島マジユロ島で働くようになってから間もなく、浮田信家さんという未知の人からの手紙を受け取りました。

当時、日本とミクロネシア諸島の間を二隻の貨物船が往復していました。「パシフィック・アイランダー」と「ガンナーズ・ノット」で、日本からの輸出貨物をミクロネシアの各島に下ろし、代わりに現地の産物、主としてコブラを積んで

日本に帰るといふものでした。

「ガンナーズ・ノット」のゴー船長から頼まれたと言って、一人の男性が私の宿舎に浮田さんからの手紙を持ってきたのですが、私はゴー船長との面識はありませんでした。

浮田さんからの手紙では、「マーシャル方面で戦死した日本の軍人たちの慰霊のために現地を訪れたい、そして最終目的はクエゼリンに慰霊碑を建立して、遺族たちが参詣出来るようにしたい、しかし現地の事情は一つわからないので、薬にもすがりたい気持ちでこの手紙をしたためた」という趣旨のことが切々と書かれてありました。

浮田さんたちは手掛かりをつかむために、横浜に停泊していた「ガンナーズ・ノット」を訪れ、ゴー船長に会い様子を尋ねたところ、「ミス・ヤマダ(私の旧姓)」という日本人女性が働いていると人づてに聞いたと語り、その内容はかなり曖昧だったということでした。ただそれだけを手掛かりに、浮田さんは私への手紙を船長に託したものでした。

私は半信半疑でしたが、もし本当なら

握りつぶすのは失礼と思い、手紙に記された質問事項に回答しました。すぐ折り返し返信があり、「暗闇で探しものをしていた時、パツと明りがついたような気持ちでした」と喜びとお礼を述べていました。

それから浮田さんとの頻繁な交信が続きました。やがて佐竹エスさんと共に慰霊の旅に出发し、二人がマジユロに着いたのが1967年だったと記憶しています。

その頃私はクエゼリンから休暇でマジユロを訪れていた徳原勇(夫・故人)と知り合いました。生憎マジユロで流行性肝炎が蔓延し、島は封鎖され、すべての人は島から出ることを禁じられました。そんな時浮田さん、佐竹さんが到着したのです。クエゼリンに帰れず、島に閉じ込められた徳原も、荷物の運搬などを手伝い、食事も共にするなど、思いがけず浮田さんたちと徳原とが親しくなる機会を得ました。

浮田さんたちはマジユロから更に南方のマキン、タラワなどを訪れるため、私の働く会社の船をチャーターしました。

社長のアマタ・カブア氏から私も同行し、手伝うようにと命じられ、私は喜んで承諾しました。

戦跡を慰霊のために訪れるという目的であることから、厳粛な気持ちではありましたが、同時に戦後まだ日本人が訪れたことのない島々を回る機会を得たことに、私は興奮していました。どの島を訪れても、私たちは歓迎され、協力を得て、慰霊祭はつつがなくとり行なわれまし

た。私たちの乗った船の船員たちや多くの島の人たちも参列して下さいました。船の旅の間、色々なことがありました。

戻りの航海の途中、或る島で急病人が出たという緊急通報があり、その島に寄港しました。出産後に出血が止まらないと言う女性患者でした。残念なことに、マジュロに着く前にその女性は息を引き取りました。生まれた赤ちゃんはその後元気に育っているということを知りました。



激戦の中で一本残った墓標のようなクエゼリン島の椰子の木(徳原氏提供)

船にあまり強くない私は船酔いに苦しんだこともありました。浮田さんも佐竹さんも意外にしぶとく、船がどんなに揺れても平然としていました。佐竹さんが親しく話しかけてきても、気分が悪かった私はそっけない態度でした。いまだに後悔しています。

航海中は飲酒が禁じられているにもかかわらず、船員の一人が飲んだということで大さわぎをしたこともありました。

星のきらめく夜空を指して、あれが南十字星だと私に教えてくれた船員もいました。赤道を通過した時、船の汽笛が鳴り響き、皆が歓声を上げ、手をたたきました。

慰霊の旅は成功でした。マジュロに戻ってからは、日本からの船が着くまでの間、浮田、佐竹両氏は島の生活を満喫したようです。ピクニックに参加したり、パーティーを開いたり、島の人たちとの親睦を深めました。

慰霊の旅は成功したものの、まだクエゼリンに慰霊碑を建立するという大事業が残っていました。しかしこれは徳原やその仲間たちの努力と米軍側の理解と協

力で無事完成しました。

もし私が徳原と結婚しなかったら、彼は遺族会と関係を持つこともなく、したがって慰霊碑の建立がどのようなことになっただのか想像が付きません。まるで遺族会のために私たちはめぐりあい、結婚したみたいだと、二人で冗談を言っていたこともありました。

外国の軍用地で、日本人戦死者の慰霊碑建立作業が、すべて非日本人の手で進められたということに大そう意義があると思います。

その協力者の殆どがすでに他界しました。私はこの人たちに「ご苦労様」を言いたくて、そして「有難う」を言いたくて、去る2001年7月、私の働くハワイの新聞に記事を書きました。一部黒川会長に送りましたので、読んでいただいたと思います。

南の島々の慰霊、クエゼリンに慰霊碑建立、現地訪問という当初の目的は多くの人たちの協力により達せられました。これからも、遺族のかたがたの慰霊碑訪問は何の支障もなく続くものと信じています。

このように、遺族会と私とのご縁が、浮田さんからの一通の手紙から始まったことに、私は不思議な運命の糸を見ました。

終

寄付者芳名

●ご敬称、さらに都道府県名は頭文字表記に略させて戴きました。

◇一万二千元

番場信子(千) 井上照美(鳥)

◇一万元

黒川誠(東) 晝間志津子(東) 岩佐とみ

(千) 吉松貞子(福岡) 宮城幸子(沖)

◇七千元

岡島みね子(愛知) 川本彦次(京) 大見

シノブ(愛知) 服部くにゑ(静) 山下タ

エ(長崎) 廣原実(千) 奥井禮子(広)

兵頭義彦(会) 野島貞人(高) 馬場富美

子(大) 内海静枝(東) 久保田泰子(愛

媛) 黒川正文(山梨) 熊澤静子(神) 宮

崎実(千) 渡部守(愛媛) 伊藤梅子(愛

媛) 奥田義寛(奈) 佐々木千鶴子(広)

◇六千元

平田郁子(福岡) 小田原利子(埼) 近藤

マスエ(埼)

◇五千五百円

石川正興(香)

◇五千元

金子武晴(神) 相馬ツキ(宮城) 石渡綾

子(神) 植田敏裕(広) 安藤昌子(愛知)

山田キヨエ(新) 富田ミツ(福島) 石川

きみ(千) 鈴木裕子(埼) 坂本美枝子(東)

◇三千五百円

丹野好啓(山形) 山口久幸(長野)

◇三千元

長谷川智子(東) 川名茂子(神) 石川勲(東)

高坂和靖(東) 中村順子(東) 腰川妙子

(千) 小杉サヨ(岩) 高林芳夫(埼)

小島八重子(東)

◇二千元

郡義典(会) 大畑幸夫(静) 吉田正明(岐)

油井芳枝(長野) 滝澤弘一(長野) 荻野

松枝(福岡) 野崎昭二(静) 馬場清(愛

媛) 福井栄子(和) 荒木常子(東) 下川

与三郎(青) 田中猛(東) 福田音和(大)

藤本正(広) 井上賀雄(東) 西田恒子(東)

根本さとみ(福島) 鈴木やよい(茨) 土

田利子(熊) 東地位義則(京) 石丸進(新)

川越コウ(鹿) 谷澤英子(千) 三好エミ

子(愛媛)長岡俊夫(愛媛)枝光剛郎(兵)
藤木義房(富)広上敏夫(富)吉永峯生
(山口)大塚喜久雄(愛媛)岡野智津子(神)

高山満喜男(千)尾上一郎(会)須藤明

子(青)大高吉郎(東)古市光男(福島)

平井加代子(神)千田恒子(埼)佐藤亨

三(岩)森井静子(神)佐藤知子(埼)

打矢和子(秋)富川佳代子(香)鈴木ヨ

シエ(福島)池田淑子(富)植川二男(熊)

宮下勤子(長野)豊谷美恵子(千)豊谷

秀光(会)北條晃(茨)浦手ハル(広)

浜田つき子(東)山口良二(東)山村一

郎(愛媛)草場寛(東)

◆一千五百円

天野好子(埼)橋本強(埼)菊地彦亘(栃)

堀尾洋平(岐)小田原利子(埼)

◆一千円

間々田征史(東)小野博孝(埼)安威和

子(神)谷梯初枝(東)浜田芳枝(愛知)

岩波邦江(東)瀬戸隆子(広)富川艶子

(埼)相川孝夫(千)

◆五百円

石井健蔵(千)右山定(熊)石井貞植(埼)

柳村摩耶子(高)岩川あい(北)綾部は

つゑ(長野)野平ヨネ(鹿)柳沢弘子(神)

西森サツキ(神)鈴木友季子(神)片山
玲子(熊)神永栄子(茨)塚野ヨシ子(熊)

以上、計四十七万四千元。

千鳥ヶ淵墓苑拝礼式

黒川 誠 (会長)

五月二十五日、文字通り五月晴れの好
天に恵まれ墓苑周辺は新緑一色に飾られ
て快い緑風を受けながら式典が始まる。

三笠宮同妃殿下ご臨席のもと、献花が
始まる。麻生首相から順に遺族代表が続
く。参列者は殆どが高齢者で、招待席も
遺族席も同様である。舛添大臣は昨年は
陣頭指揮であったが、今年是新インフル
エンザ等々であろうか、副大臣に一任し
て不在であった。

さて、グレッグ氏から電話連絡があり、
クエゼリン基地の工事中に遺骨が出たと
のことである。DNA鑑定の結果、東洋
人のものであれば引き取らねばならない
が、平成九年(前佐藤会長の折)同様の
ことがあり、厚生労働省の職員が遺骨受
領に行き、成田空港まで出迎えに行きま

した。遺骨は段ボール箱(35×75×55セ
ンチ)に入って到着したことを覚えてい
ます。

遺骨は厚生労働省に保管されて、やがて千
鳥ヶ淵墓苑に無名戦士の英霊として納骨
されるのですが、その大きさは十五セン
チのサイコロ状の木箱でした。五十分の
一です。残りの遺骨はどうなったのでし
ょうか。このような扱いでは英霊に対し
て申し訳のないことです。

クエゼリン島は英霊が眠るためには絶
好の地と思いますが、皆様はどのように
お考えでしょうか。

計報

●会員の山森久江さんが五月十六日にお
亡くなりになりました。

●南部利昭靖国神社宮司が一月七日急
逝されました。享年七十五歳。南部宮司
は、昭和十年九月十六日の生まれで、平
成十六年九月十一日、湯澤貞前宮司の後
を受け、第九代靖国神社宮司に就任。四
年四ヵ月に亙って重責を担われた。
謹んでご冥福をお祈り致します。

第47回マーシャル方面遺族会慰霊祭 平成21年4月4日 於 靖国神社



撮影 ツカモト写真館(靖国神社・九段会館指定)